

漢字の将来

このやうに倉石博士は「漢字は亡びる運命にある」と予言してゐる。地球だっていつかは亡びるのだから、漢字だって亡びないわけが無い。その意味では私も「漢字は亡びる運命にある」といふ言葉を否定しない。

然し、倉石博士の「漢字が近代化の邪魔になるから亡び去る」といふ意見には真向から反対する。私は倉石博士とは反対に、「漢字は、近代化の邪魔になるどころか、大変な助けになってゐる」ことを確信してゐる。「事実を、よく目を開いて見よ」と私は言ひたい。明治時代における我が国の躍進を見ても、また、戦後における、世界を驚嘆させた大躍進を見ても、「漢字が近代化の障害になるか、助けになるか」明瞭であらう。

日本の発展の原因を“勤勉”に置く意見がある。然し、さうではない事は、我が国において勤勉な者が必ずしも成功したり立派な生活をしてゐない事で解るではないか。

嘗て“水平思考”で評判になったイギリスのノボノ博士は、「二十一世紀は日本の活躍する世紀になるであらう。その理由は、イギリスではせいぜい千の単位でしか読まれてゐない学術専門書が、日本では万、

乃至は十万の単位で読まれてゐるからだ」と言つてゐる。

日本の過去の発展も現在の発展も、“勤勉”よりも“読書量”の多いことに在る。その読書量が多いことは、漢字が助けにこそなれ決して障げにならない事の証拠であることは確かであらう。

最近、マサチューセッツ工科大学で、世界中の文字について、どの国の文字が最も読書効率が高いかを、科学的に比較研究調査したところ、日本の“漢字かな混り文”が最も効率が高いことが明らかにされたといふ。

また、カリフォルニア大学で、アメリカの子供たちに英語をローマ字表記のものと一緒に漢字で教へたところ、漢字の方が例外なくよく覚えられたといふ。つまり、“山”と“mountain”とでは“山”の方がアメリカの子供たちにも解り易く覚え易いのである。

また、フィラデルフィヤの人間能力開発研究所では、日本の小・中学校では学習させてゐないやうな漢字でも、アメリカの幼児たちに学習させてゐるが、どんどん覚えるといふことである。

私は、表語文字である漢字だけが本当の文字であると確信してゐるので、漢字が益々その効用を發揮し、欧米人にも利用されるやうになるのではないかと思つてゐる。